

道徳科 学習指導案

日時	平成 30 年 6 月 5 日 (火)
児童	小学校 6 年 組 名
授業者	

1 主題名 誠実に生きる【A 正直・誠実】

2 教材名 「手品師」(小学道徳『はばたこう明日へ 6』教育出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいと価値について

本主題は、小学校第 5 学年及び第 6 学年内容項目「誠実に、明るい心で生活すること。」を深めることを意図したものである。これは、第 1 学年及び第 2 学年内容項目「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。」、第 3 学年及び第 4 学年内容項目「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」のつながりからのものになる。

小学校学習指導要領解説の「特別の教科 道徳」編では、高学年の段階について、「自分自身に対する誠実さがより一層求められる。特にその誠実さが自分の内面を満たすことだけではなく、例えば、他の人の受け止めを過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるように配慮する必要がある。そのことが明るい心となって行動にも表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にすることで自己を向上させることや自信にもつながっていく。」とある。

指導に当たっては、本時をきっかけとして、「表向き」ではなく、本当の意味でみんなと楽しい生活を送れるようにしていくことが大切である。一方で、よくないことと知りつつも周囲に流されてしまったり、傍観者として過ごしてしまうことが、セルフイメージの低下に繋がってしまうということも考えられるように指導していきたい。

(2) 児童の実態

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する児童の実態を把握するため、道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目 A の結果は次のとおりである。

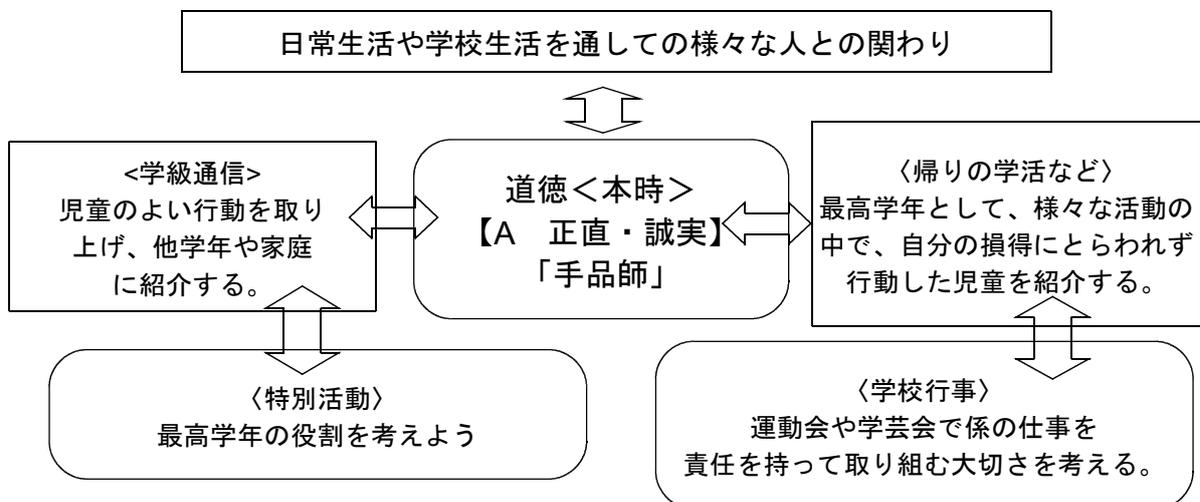
項 目		ア	イ	ウ	エ
A	1	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。			
	2	自分の気持ちをごまかさず、みんなと明るく生活している。			
	3	落ち着いた生活を送るよう心がけている。			
	4	自分の長所を知り、自分の良さを生かそうとしている。			
	5	目標をもって、何事にもあきらめず最後まで努力している。			
	6	正しい考えをもって、物事に取り組もうとしている。			

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

(3) 教材について

本教材は1976年（昭和51年）発行の『小学校道徳の指導資料とその利用』（文部省）に掲載されたものであり、内容項目が現在のよう
に四つの視点に分けられる前の資料である。つまり、作成当時は「誠実」
という内容項目には「自分自身に対する誠実さ」と「周りの人たちへの
誠実さ」の両方が含まれていたのである。しかし、内容項目が四つの視
点に分けられている現在では、「誠実」はAの視点、主として自分自身
に関することに含まれている内容項目である。よって、本教材も「自分
自身に対する誠実さ」について、児童に考えさせることが大切になる。
しかし、児童はどうしても男の子に対する思いやりや優しき、行かなけ
ればかわいそうという考え（相手への誠実さ）に偏りがちになる。そう
なると、Bの視点の友情や思いやりに近くなり、ねらいとする価値に近
づけにくくなる。そこで、児童の考えが「手品師自身の誠実さ」に向か
うよう、あくまで手品師自身の気持ちの問題であることに焦点化しなが
ら児童に考えさせていく必要がある。

4 他の教育活動とのつながり



5 指導の工夫

(1) 導入時における「問題意識をもたせる効果的な発問」

今、児童にとって最も興味・関心のある事項である「修学旅行」についての話題を用いる。それにより、本時内容を児童が「自分事」として捉えるよう仕掛けていきたい。

(2) 展開時における「議論しやすい、議論になる効果的な中心発問」

本時の中心発問は「手品師の行動は、果たして自分自身に誠実と言えるでしょうか。」とした。「男の子を選んだ手品師の気持ちを問う」発問や、「手品師はどうすればよかったのか」を問う発問も検討したが、本学級ではこれらの発問だと全員が同じ立場を選びかねず、議論するための場を設定することができない可能性がある。

また、「先に約束したから」などの建前的な意見交換に終始するのではなく、「守るべきものは何なのか？」という一歩進んだ道徳的価値について議論してほしいという願いから、この発問を設定した。

(3) 展開時における「目的に応じた効果的な話し合い活動」

「問い返し」を用いて、表向きの価値から子ども達自身が深めていくことのできるよう支援していく。

また、子ども達同士の「学びの横のつながり」を生むべく、「〇〇さんはこのように言っているけど、〇〇さんはどう？」といった声かけを行っていきたい。

更に、教師自身が子ども達の話し合い活動に極力介入しないよう配慮していきたい。

(4) 道徳的価値を道徳的実践につなげる手立て

モラルスキルトレーニングの手法を取り入れる。学習指導要領では「話し合い」「練り合い」によって深められた道徳的価値が、道徳的実践に現れることを狙っている。モラルスキルトレーニングを取り入れて、すぐに児童の行動が変容するわけではない。

しかし、学校生活や日常生活の様々な場面で、本時での学習を子ども達が想起し、それまでとは違う行動を取ることができるきっかけにはなると考え、取り入れる。

(5) 思考を深める手がかりとする「板書」

構造・対比型の板書を用いる。これにより、異なる立場の「共通点」を子ども達に分かりやすく示すことを狙う。また、字だけではなく、記号や矢印なども用いながら、子ども達の話し合いの内容を明快に黒板に表現できるようにしていきたい。

6 目指す児童の変容

授業前：本当はそうは思わないけど、〇〇さんに合わせておけば損はしないからそうしよう。



* 本授業をきっかけとし、
今後似たような場面に児童が出くわした時に…、

授業後：他の人とは意見が違ってもいいけど、自分はこれが一番正しいと思うから、そう行動しよう。

7 本時について

(1) 本時のねらい

問題場面を自分事として捉え、「手品師」の行動について考える活動から、他者を通して「正直・誠実」についての自己の価値感を見直すことができる。

(2) 本時の展開

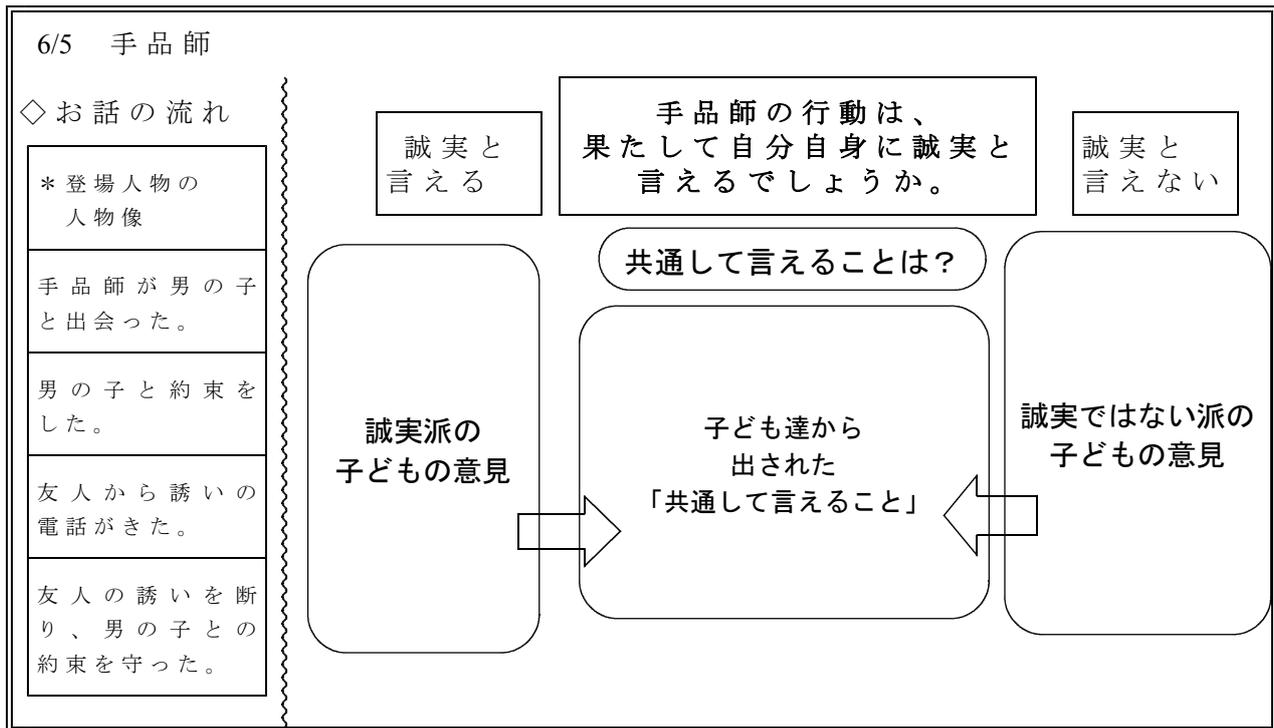
	主な学習活動（○指示・発問 ◎中心的な発問）	*指導の留意点 △支援など ◇評価
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行で楽しみなことは何か問う。 ・ラフティング ・ルスツ ・自主研修 ○今日の道德の授業は、自主研修で役立つかもしれないことを告げる。 	
展開 前半 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読む。 ・5分間取る ・児童それぞれが黙読。 ・終わったら挙手して伝える。 ○教材の構造を明らかにする。 ・登場人物の人物像 ・手品師が男の子と約束をした。 ・友人から、大きな劇場で公演しないかと誘われた。 ・手品師は、友人の誘いを断り、男の子との約束を守った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎手品師の行動は、果たして自分自身に誠実と言えるでしょうか？</p> </div>	<p>△読めない漢字、意味の分からない言葉などがあれば指導する。</p> <p>*友人について印象づけておく</p> <p>*紙黒板を用い、できるだけ時間をかけずに確認していく。</p>
展開 後半 21分	<ul style="list-style-type: none"> ・「誠実」の意味を辞書で調べさせる。 ・言えるか言えないかを理由も含めて考え、意見を発表していく。 *誠実と言える →男の子との約束を守ったから 子どもを悲しませなかったから 言えない→友人のせつかくの誘いを断ったから 本当は劇場で手品をしたかったはずだから。 ・どちらの立場にも共通することはないか考え、全体で深めていく。 *共通する点→自分で判断した人のことを考えた 損得で動かなかった 自分がどうするか決めた後、きっぱりしていたから。 ○モラルスキルトレーニングを行う。 ・トレーニングテーマを提示する。 	<p>◇発表の様子</p> <p>*名前の札をはり、どちらの立場か明確にさせる (札は途中で移動しても良い)</p>

	<p>*資料「自主研修にて・・・」を配布する。 ・資料を読み、場面をつかむ。</p> <p>○「あなたが私なら、どうしますか？」 ・道徳ノートに、自分ならこうするという行動を考えて書き込む。 ・数名に実演してもらう。</p>	◇道徳ノート 交流の様子
終末 6分	○本時の学習で感じたこと、思ったことなどを道徳ノートに書く。	◇道徳ノート

(3) 本時評価

- 他者を通して「正直・誠実」についての自己の価値感を見直すことができたか。(授業での発言、道徳ノート)

8 板書計画



* 配布資料「自主研修にて・・・」

登場人物 → 私 島田さん 柴田さん

今日はずっと楽しみにしていた札幌での自主研修の日。
修学旅行の準備の期間中、私たち3人グループは、休み時間や放課後の
時間も使って、最高の自主研修にしようと計画を立てていた。

そのかいもあり、自主研修は順調に進んだ。
そして、計画段階から3人の中でも一番活発な島田さんが一番楽しみにして
いた小物店に向かおうとした時、事件は起こった。

3人の中でも一番大人しい柴田さんが、そのお土産店の近くに自分の大好き
なキャラクターグッズのショップを発見したのだ。

柴田さんは、
「ねえねえ、計画とは違うけど、あっちに行かない？」
と私に話しかけてきた。

私は戸惑った。
確かに私も柴田さんが見つけたショップには興味がある。
しかも、普段は大人しい柴田さんが言ったのだ。
よほど行きたいのだろう。
先生も、計画は計画だから実際に行ってみて、メンバーが納得なら
変更は構わないと事前指導で話していた。
けれども、島田さんのことを考えると・・・。
両方行くという方法もあるかもしれないが、自主研修の集合時間も
迫ってきている。